上川井だより

令和５年４月２８日
横浜市立上川井小学校
校長　山崎真紀子

５月号

自分と対話する時間

青葉が目に鮮やかな季節となりました。頬を撫でる風が心地よく、何か新しいことに挑戦したいような前向きな気持ちにさせられます。

新年度がスタートして一月が経ちました。上川井小は中休みが３０分と長いので、外で思い切り体を動かしたり、絵を描いたり、思い思いに過ごしている様子がうかがえます。先日、図書室を訪ねると、低学年の子が畳コーナーで仲良く絵本を読んでいました。机のあるエリアでは、「次は、ここを折るんだね。」「違うよ。もうちょっと小さく折って。」と本を見ながら折り紙を折っています。カウンターでは、６年生が「先生、夏休みみたいに、いつも一人２冊借りられるようにしてほしいな。もっと、いろいろ読みたいんだ。」と司書に話しています。お話の世界を楽しむ様子に心が和みます。

さて、GIGA スクール構想が発表され、一人１台のタブレットが配備され数年が過ぎました。授業で調べる時もタブレットを活用し、インターネットを介して情報を収集することが増えました。図書で調べるよりも安価に手早く情報にアクセスでき、とても便利です。ネットの情報は、いとも簡単にコピーでき、体裁もよく、なんだかとても物知りでよくわかった気持ちになってしまう不思議な力があります。巷では、チャットボットによる文章作成が自動でできるソフトが話題となっています。このソフトを使用することには賛否両論ありますが、大変便利であることは否めません。ただ、いくら AI を備えているといえども、入力する情報を頼りに文章作成するため、いかに的確に必要な情報を入力するかで、その仕上がりが大きく変わってくるともいわれます。まさに、ロボットと対話する世界です。小学校でも教科書のデジタル化が進められ、学校教育活動もデジタル抜きでは進められない時代になりました。

一方で、これまで取り組んできた中で大切にしたいこともあります。そのうちの一つが読書です。本を読んでいるときは、頭の中に絵が思い浮かんで想像を掻き立て、時に数ページ前に戻って確かめたり、結末が気になって飛ばして読んだり、物語の世界を自由に行ったり来たりできます。自分の経験や知識と照らし合わせて想像しながら読み進め、考えを深めたり新たな発見をしたりする読書は、自分自身と対話する時間といえるのではないでしょうか。じっくりと自分の心を見つめ、自分自身と対話する豊かな時間を経験することは、心の成長に欠かせないものです。

今年度本校では、読書活動にも力を入れていきたいと考えています。言葉を頼りに想像し、背景を考え、結末を予想することは読書の醍醐味です。小学校という人格形成の大切な時期に、ぜひ心に残る本との出会いをと願ってやみません。今月から地域学校協働本部の皆さんにもご協力いただき、読み聞かせ活動も再開いたします。子どもたちの手の届くところにいつも本がある環境を整え、子どもたちが本の世界で自分自身と対話する時間を作っていきたいと思います。ぜひ、ご家庭でもお子さんと一緒に本を手にして対話していただけたらと思います。